

◆リーダーの顔色をうかがう組織のリスク◆

さて、あなたの会社では社員がリーダーの顔色を見ながら仕事をしていると感じることはありませんか？

◆ _____ ◆
リーダーの顔色をうかがう組織のリスク
◆ _____ ◆

リーダーが出社すると、なんとなく職場の空気が変わる。そんな光景を目にしたことはないでしょうか。
特に、リーダーが朝から忙しそうだったり、表情が陰しかったりすると、社員は話しかけるタイミングを見計らうようになります。
◇「忙しそうだから相談はやめておこう」
◇「この報告は今日じゃない方がよさそう」
◇「機嫌が悪そうだから今は黙っておこう」

このように、リーダーの様子を見て、社員が報告や相談のタイミングを変えてしまうことがあります。
もちろん、リーダーにそのつもりはないかもしれませんが。
また、忙しさやプレッシャーから、表情が陰しくなったり、口調が強くなったりすることは誰にでもあります。
しかし、部下はリーダーの言葉だけでなく、表情や態度からも多くのことを感じ取っています。
その結果、
◆報告や相談が遅れる
◆問題が表面化しにくくなる
◆社員が自分で判断せず、リーダーの反応を優先するようになる
といった状況が生まれるリスクがあります。

さらに怖いのは、【正しいかどうかではなく、リーダーがどう思うか】を基準に行動する社員が増えてしまうことです。
では、このような事態に陥るのを防ぐには、どうすればよいのでしょうか。

実際に、リーダー研修などの場では、以下のような点を意識するようリーダーに伝えられることが多いようです。
■忙しい時ほど、あいさつや声掛けを大切にする
■「困ったらすぐ相談してほしい」と日頃から伝え続ける
■ミスやトラブルが起きても相手を責めず、まずは事実確認をする
など。

リーダーにとって、部下が安心して報告・相談し、挑戦できる環境をつくることは、大切な仕事の一つです。
もし部下がリーダーの顔色を見て行動するようになれば、失われるのはコミュニケーションだけではありません。
問題を早く発見する機会も、新しい挑戦が生まれる機会も、少しずつ失われていきます。

ぜひ一度、経営者を含めたリーダー陣で、「部下は自分に話しかけやすいだろうか」という視点から、日々の関わり方を振り返る機会をつくってみてはいかがでしょうか。

□ ■ □ _____
編集後記
_____ □ ■ □

今回は「リーダーの顔色をうかがう組織のリスク」をテーマにお伝えしました。
リーダーにとっては何気ない態度でも、周囲には想像以上に影響を与えているものです。
当社でも、「話しかけやすい空気」をつくらせているか、見直してみようと思いました。

最後までお読みいただきましてありがとうございます。
ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

